

2024年度 上智大学後援会総会

学生生活を多方面から支援

上智大学後援会では、例年5月に総会を開催し予算・決算などを審議している。今年度も、役員をはじめ多数の会員(学生の父母・保証人)が出席した。総会では、2023年度決算、2024年度予算、および2024年度役員改選の議案3件が審議され、全て承認された。

2024年度の予算のうち、大学への寄付の総額は3204万2千円。寄付項目には100円朝食への支援やWEB面接用ボックス「テレキューブ」レンタル費用支援が含まれるほか、外国人学生も含む全学生対象の奨学金や派遣交換留学生奨学金など、学生生活のあらゆる面を支援するものとなっている。

また、役員改選の承認に伴い、2023年度副会長であった米澤実氏(国際教養学部4年次生保証人)が第47代会長に就任した。

総会に続き、文学部国文学科の本廣陽子教授により「平安文学と『源氏物語』の世界」と題した講演会が開催された。現在放送中のNHK大河ドラマにも通ずる内容に参加者は興味深く聞き入っており、「平安時代における物語や女流作家の位置づけまで知ること



父母・保証人が学生支援予算などについて審議した

ができ、新鮮だった」などの声が寄せられた。講演終了後には懇親会も催され、会員同士の交流に加え、学生課外活動団体によるパフォーマンスが行われた。

上智大学後援会は1973年に発足。会費は、大学の教育研究環境の改善など、さまざまな目的のために使用されている。

入会方法など後援会についてのお問い合わせは、総務局ソフィア連携室内・後援会事務局まで。電話03(3238)3127

▶上智大学後援会WEBサイト

<https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/guarantors/parents/>



後援会会長 新任のご挨拶

上智大学後援会会長 米澤実



本年度、上智大学後援会会長を務めさせていただくことになりました。在学生のご父母・保証人の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

上智大学後援会は1973年に設立されました。イエズス会の先生方が給与から最低限の生活費を除き、教育環境向上のために寄付されていることを当時の在学生父母が知ったことがきっかけです。後援会からの支援内容は時代に応じて変わって参りましたが、父母・保証人の立場からも、より充実した学生生活の支援に貢献したいという想いは50年以上経過した現在でも変わっていません。

現在の支援内容は、安全・安心な学習環境の提供、学生の自主的な活動の支援、さまざまな機会や経験をj提供する支援など多岐に渡ります。キャンパス内の食堂で朝食を100円で提供する「100円朝食」や目白聖母キャンパスの昼食補助は、学生を経済と健康の面から支援しています。就学支援となる奨学金や課外活動団体への助成は、経済力と自主的な活動を応援しています。WEB面接用のボックス「テレキューブ」のレンタル、留学に関わるアドバイザー費用の補助、新刊図書購入の補助は、さまざまな機会への挑戦を後押ししています。

こうした支援内容のご理解を深めていただくため、後援会会員の方々に大学を身近に感じていただくことも重要な役割のひとつです。懇親会は、理事長、学長、学部長はじめ多くの先生方にご参加いただき、直接お話いただける機会となっています。そして、今年度は新企画として、11月に四谷キャンパスのガイドツアーを行います。後援会が支援する施設などを学生のガイドによりご見学いただく予定で、ツアーの後には会員同士の情報交換会も開催いたします。

このように上智大学後援会は、大学に寄り添い、学生がより良い環境で学生生活を送ることができるようお手伝いをしています。多くの皆様にご理解をいただき、一緒に学生の支援を行っていただけますよう、心よりご入会をお待ちしております。

上智大学は、新たな公開講座となる「上智地球市民講座」を4月から開講した。社会人、大学生、高校生など約500名が受講し、数か月にわたり活発な学びと知識の交流が展開された。

7月までの春学期には19の講座が開講。一部の講座はオンラインでも参加可能で、関東だけでなく全国や海外からも多くの受講者が集った。

総合人間科学部教育学科の相澤真一教授による「日本社会の格差と教育」では、教育社会学の観点から、格差と



世代を超えて多くの受講者が集まった(相澤教授の講義)

「上智地球市民講座」の春学期が開講 多世代が共に学ぶ、新たな教育プログラム

教育の関係や、時代・世代・地域の違いなどを考慮した深い議論を展開。講義では毎回クイズが出題され、受講者はグループワークを通じて知識を深め合った。

カトリック・イエズス会センターイエズス会の山内保憲神父が担当する



自らの介護体験や自己と組織の変革について語る山内神父

「個人と組織の『自己変革』とイノベーションのプロセス-イエズス会の精神性が教える、個人・組織・社会を根本から変容させる方法論-」では、イグナチオ・デ・ロヨラの霊操や、山内神父の介護経験をもとに、自己と組織を変革するために必要となる具体的なプロセスが語られ、受講者同士で自身の変革体験を共有する場面も見られた。

受講者へのアンケートでは、「本を読むだけでは知り得ない内容を教えてもらった」、「私たちが取り組むべき未来への課題を理解し、周りを巻き込みながらできることをやっていきたいと思う」など、満足度の高い声が寄せられた。

【お知らせ】

秋学期(10月開講)の受講者を現在募集中。詳細情報や受講申込は、上智地球市民講座WEBサイトを参照。

▶上智地球市民講座WEBサイト

<https://sgcp.sophia.ac.jp/>

▶お問い合わせ

上智大学 学事局 Sophia Future Design Platform推進室
global-citizen-co@sophia.ac.jp



2023年度決算・2024年度予算

2024年2月開催理事会および2024年5月開催理事会において、2023年度決算ならびに2024年度予算が承認されました。2023年度事業報告書および2024年度事業計画書については、学校法人上智学院公式サイト「事業計画書・事業報告書・財務状況(決算資料)」をご確認ください。

▶学校法人上智学院公式サイト

<https://www.sophia-sc.jp/info/gakuin.html>



枝川寮のボッシュ神父像に功績を称える銘板を設置 学生を愛し続けた舎監長

本学創立110周年を記念し、枝川寮中庭のボッシュ神父像に功績を称える銘板が設置され、6月24日、お祝いと感謝の祈りの会が行われた。

イエズス会のフランツ・ボッシュ神父(1910~58)は、ドイツ出身で、1940年に来日。本学で教壇に立つ傍

ら、第二次世界大戦後の学生たちを住宅難や食糧難から救うため、学生寮の開設に奔走した。1948年、米軍払い下げのカマボコ型兵舎をキャンパス内に移築し開設された学生寮は、舎監のボッシュ神父にちなんで「ボッシュ・タウン」と呼ばれた。

ボッシュ神父は、ボッシュ・タウンの舎監長として真摯に学生たちと向き合った。その厳しくも愛にあふれる指導から、「オヤジ」の愛称で親しまれていたが、1957年、四谷キャンパス内



枝川寮中庭のボッシュ神父像

の上智会館(現在の6号館がある場所)に待望の男子学生寮が新設された翌年、48歳という若さで急逝した。

1959年、ボッシュ神父を慕う人びとによって建立された胸像は長く上智会館前にあったが、枝川寮の開設後はその中庭に移され、今も変わらず穏やかなまなざしで学生たちを見守り続けている。

訃報

庄野 克房 名誉教授逝去

5月28日死去。90歳。1934年生まれ。56年京都大学理学部物理学卒業。70年本学理工学部非常勤講師、71年同助教授、73年同教授。99年から本学名誉教授。

77年1月~79年9月理工学研究科電気電子工学専攻主任、82年4月~84年3月理工学部電気電子工学科長を務めた。

著書に『CMOS LSIエンジニアリング』(日刊工業新聞社)『半導体技術上・下』(東京大学出版会)など。専門は半導体工学、固体電子工学。

SUP 上智大学出版 新刊紹介



■『遠藤周作とフランソワ・モーリヤック 誘惑と母性』福田耕介【著】(1,700円+税)



■『辺境からコロンビアを見る 一可視性と周縁性の相克』幡谷則子、千代勇一【編著】(2,400円+税)

ぎょうせいオンラインショップ、全国主要書店および紀伊國屋書店上智大学店で販売中。



ぎょうせいオンラインショップはこちらから